

平成 26 年第 12 回庄原市教育委員会 会議録 【秘密会】

【午後 3 時 41 分～午後 6 時 19 分】

委員長 ただ今から会議を非公開といたします。

委員長 今までは、議事録も公開していませんでしたが、今回は要望等もあり、委員の発言が特定されないということを条件に公開するという事についてお諮りします。よろしいでしょうか。

全員 よい。

委員長 それでは、日程第 6、議案第 49 号「平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択について」議題といたします。提案をお願いします。

事務局 (提案説明：議案 20 ページ)

「平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択について」関係法（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 23 条 6 号）の関係規則（庄原市教育委員会教育長に対する事務委任規則第 2 条第 8 項）の規定に基づき、教育委員会の決定をいただきたい。先程の事前説明の調査研究答申をご覧頂き、種目ごとに総合所見のみポイントをお伝えしたい。

まず、国語科。総合的に展開する単元を配列したり、「つながる」として既習事項、「ひろがる」として発展学習へつながるヒントを明記したりして、内容が充実している。児童の意欲を喚起するような創作する活動や関連本の紹介も多くある。明確な視点があり、振り返りも分かりやすい。という理由から総合的に判断し、東書を選定している。また、特徴的な取組みを行っている三省堂を第二に選定している。国語科の選定について審議をお願いしたい。

委員長 意見をお願いします。

○ 東書が適切であると考えます。理由として、先程述べられたことに加え、説明文の教材等も子供に感銘を与える、考えさせるものが揃っている。また、本県本市の課題である書くことについても、発展学習につながるものも明記されているのは東書である。一方、多くの単元をしっかり勉強するという観点を考えれば教出。これはかなりの単元を揃えており、さまざまなジャンルを勉強することができる。しかし、しっかり読み味わい、あるいはじっくり考えさせる指導の工夫が出来るのは東書である。また、東書は漢字等の勉強がしやすく工夫が示されている。例えば、用例や熟語などの例である。また、ローマ字のことも巻末にきちんと提示してある。ローマ字がないのは、学図、教出。情報のことを取り上げられていないのは教出。伝統文化の観点で見た時、東書と光村が工夫している。例えば、光村では詩や俳句など年間を通じて中・高学年において示している。東書は 2 年生以上で、「日本語しらべ」として行事・俳句・短歌など年間を通じて示している。丁寧な展開が総じてされているのは東書。学図は子供の学びがシンプル。光村はややじっくりと取り組むとい

う利点はあるが、東書の方が優っている。教出はたくさんの教材、全学年上下2冊。第2候補の三省堂については、学びを進めるための具体例がやや少ない。教材の一覧を列挙してみたが、学ばせたい教材が東書に多く含まれている。これらのことから東書が適切であると考えている。

委員長 他に意見はあるか。

- 光村の6年生の教科書を見せて頂きたい。東書と光村を比較してみる。
- 東書がよい。内容が充実している、まとまりがある、落ち着きがある、と感じた。本市では、自分の考えを書いていくことが弱い。その観点で見えていったが、選定資料にあるように、東書では、文章を読んで自分の考えを持つとういうことを意識して示している。自分の考えを持ち、図で整理して示し、話したり書いたりできるものを意識している。その点で東書に魅力を感じた。
- 『海のいのち』という単元。奥深い教材。東書は、題名をそのまま平仮名を使っている。作者の思い、意図することをくんでいる。光村は漢字を使っている。イラストの配置は光村がよい。心に与えるインパクトがある。イラストは子供の心に重要な位置を占める。色の配置、バランス、写真の割り振りなど心惹かれたのは光村。しかし、ご意見をいろいろ聞きながら、総合的に考えてみると、東書がよいと考える。また、小学校時代に大切と言われている班での意見交換などを取り上げているのは東書である。
- 確かに光村は絵がうまい。昔から文学は光村と言われていた。近年は東書も研究してきており、似通ってきている。よくなっている。差がなくなってきている。東書は説明文の教材がよい。書かせるという点も東書がよい。

委員長 他に意見はどうか。

- 他の教科書会社でも同じ作品（『海のいのち』）を取り上げてあったが、原作の方では題名はどうなっているのか。
- 原作は平仮名である。その点で光村がおいしいと思った。東書は題名をそのまま平仮名で表現し、光村は作者に了承をとった上で漢字に代えている。わずかなことであるが、作者の思いを大切にされている方がよいと思っている。

委員長 平成27年度使用小学校教科用図書（国語）は、東京書籍でよいか。

全員 よい。

委員長 次に、書写について検討する。

事務局 調査研究答申の総合所見は次の通りである。見開き両ページにより、書き初めの手本が半紙大で掲載されている。使われている写真も実物大で提示されている。また、1年生での鉛筆の持ち方指導、3年生での毛筆学習入門に当たる筆使いの指導が具体的で丁寧である。さらに、全学年で「巻末資料」に日常生活に役立ついろいろな書式や漢字一覧表、書き初めの教材を掲載してある。以上の理由で、総合的に判断して光村図書が最も適している。書写の教科書について検討をお願いします。

- 事前説明で、選定委員長から墨の作り方についての話がもあったが、どこの教科書のことか。

- 事務局 墨を作ることについては、すべての教科書で扱っている。
- 書の歴史、なぜ墨を作るのか、日本の文化を学ぶという意味では、墨の作り方があった方がよい。
- 事前研修の場で、墨の作り方についてはいらぬという意見が出たが、伝統文化という意味で必要だ。ただ、墨汁を買ってきて入れる、というだけではよくない。扱うべきである。
- どこも扱っている。取り扱うところは裏表紙などもあり、いろいろな位置がある。
- 選定委員会では、光村を選定されているが、私は教出がよい。特徴を述べる。教材で扱っている字は各社ともほとんど変わらない。しかし、光村は小文字のひらがなが多く、字が難しい。教出は字がまとまっている。手紙、はがきを扱っている。他社も扱っているが、教出は特徴的である。習字で穂先の工夫がきちんと出ているのは、東書、教出、光村である。振り返りをきちんとできるようにしているのは、教出。三省堂は伝統的要素が不足している。教出、日文はバランスのいい字を扱っている。三省堂は教材数が少ない。教出は教材数が多い。硬筆のページは三省堂が多い。取り上げている字については、初めの段階では似た字を取り上げているが、光村はだんだんと難しい字を取り上げている。
- 教材数が多いものはどうするのか。その中から先生が選んで行うのか。
- 事務局 全て扱う場合もあれば、選択する場合もある。
- 光村はA4サイズである。資料もいろいろあっていい。
- しかし、教科書に書き込んで練習するというのはいかがか。教出は、学習の確かめがあった。自分の進歩の様子を確認する、学習の中で生かしていこうとすることができる。また、例示が分かりやすい。
- 書写の週の時間数は。
- 事務局 1時間である。3年生以上は習字が入ってくる。
- 三省堂は、教材数が少ない。伝統的なことを扱っていないという点からもはずしてもよいのではないか。
- 委員長 いかがか。
- 教出か、光村かということになるがどうか。
- 国語の教科書との関連性という点では、東書。しかし、関連性については、選定委員会でも特に話題とならなかった。
- 光村は、教科書に書かせるという点がひっかかる。硬筆は何度も練習することが必要。教出か日文の方がよい。
- 日文は硬筆のページが少ない。
- 教出は、ポイントや学習を進める視点が明記されている。学習の流れも分かりやすい。入門期の児童にも抵抗なく取り組めるよう工夫がされている。
- 意見をまとめて、総合的な判断をすると、教出でどうか。
- よい。
- 委員長 では、平成27年度使用小学校教科用図書書写の教科書は、教育出版でよいか。

- 全員 よい。
- 委員長 続いて、社会科を検討する。
- 事務局 調査研究答申の総合所見は次の通りである。児童の動機付けのために「つかむ」という欄を設け単元のはじめに設定した上で「学びのポイント」、「話し合ってみよう」、「調べるポイント」等、学習の流れを具体的に示しながら学習が進むように工夫されている。また、児童にノートのとまとめ例を挙げ、書くことを通して学習を深めさせようとしている。さらに、発展的な学習に関する内容も充実しており、各単元にバランスよく設定されている。以上の理由で、総合的に判断して東書が最適である。検討をお願いする。
- 教科書は4社あったが、全体の構成にほとんど差はない。しかし、領土問題、日本の歴史、分かりやすさ、「わたしたちのくらし」の単元、工業・農業等、問いかげや考えさせ方、まとめ方、振り返りのこと、表・グラフ・年表の示し方など東書がよい。日文・教出もよい。とりわけ教出は歴史上の人物が多彩でよい。でも、東書が最適である。
- 委員長 他にはどうか。
- 東書がよい。学習をノートにまとめる提示がある。補充・発展の教材がある。活用・応用の広がりがある。「つかむ」という単元の初めが動機づけになっている。戦争、領土の件、近代歴史などについても見ていったが、東書がよいという印象が残った。
- 原爆や戦争の扱いがどのようになっているかという点で見た。日文が詳しく書かれていた。他の点では、あまり差はない。
- 東書は配置が分かりやすい。選定委員会の理由にもあるように、書くことを通して、学習展開できるようになっている。発展的内容も充実している。
- 東書は資料も多い。興味を引く。
- 明治以降の日本の歩みについても、東書は、わかりやすく記述してある。
- 委員長 総合的に判断して、社会の教科書は、東京書籍でよいか。
- 全員 よい。
- 委員長 続いて、地図を検討する。
- 事務局 調査研究答申の総合所見は次の通りである。地図帳活用のヒントが示され、そのヒントを基に地図帳を活用しながら効果的に学習を深める事ができる。また、奈良、京都等の都市中心部の地図では、見開きで、主要な建築物等は写真で紹介してある。これらの都市は、多くの小学校で修学旅行先になっている場所でもあり、事前学習や歴史学習においても役立つことができる。さらには、地図の中に各県の特産物が示されており、各県の特徴をつかむ学習において知識の定着につながると考える。以上の理由で、総合的に判断して東書が最も適している。審議をお願いする。
- 帝国は、地元を見る時、ちょうど折り目の真ん中になって見づらい。
- 中身を見ると、ぱっと開いた時、宇宙から見た地球があり、若田光一さんが載せてある。もう一方は、日本の周り、海底などが一緒にある。自分たちの地域がここ

にあると感じる。印象からいうと、宇宙から見た方が興味を引く。帝国の方がよい。

- 東書は、版が大きく見やすいが、田畑の高いところや山などの色分けが見にくい。ごちゃごちゃしてややこしい。東京を大きくしたところなどは見づらい。
- 原色は見づらい。
- 使いやすいのは、帝国。
- 東書は、データが少ない。資料集などを買って補えばよいが、日本の産地など不十分ではないか。
- 東書は、各国のページに国旗がない。巻末にまとめているが、これでは、どこにあるのか、地図の中での位置が分からない。一方、帝国は国ごとにきちんと工夫して示している。整理の仕方が分かりやすい。
- 興味を引くという点では、東書は修学旅行地が大きく描かれている。これらの場所は、観光地である。やや、観光地図のような感じもする。
- 資料集は、どこでも使われているのか。
- 事務局 使われている。
- 教科書は、東書を選定した。関連があった方がよいかという意味で選定委員長に研修の場で説明を求めたが、その点については、あまり強調はされなかった。
- 帯グラフ、平野・盆地の表し方という点で帝国の方がよい。
- 東書は、文化遺産について大きく描かれている。
- 東書の大きいサイズはランドセルに入るのか。
- 今は、A4サイズなら入るようになっている。
- 東書は、新しいアイデアが盛り込まれている。
- 今、求められている力として統計データを読むという学習も必要。教科書にもあるが、地図帳にもあってよいのではないか。また、「日本のすがた」として、農産物や工業製品などの都道府県の特徴を表や帯グラフで提示してあるのは、帝国である。東書にはない。国別統計も日本と世界のつながりが分かりやすくしているのは帝国である。地図帳の使い方も重視されている。

委員長 地図は、帝国書院でよいか。

全員 よい。

委員長 では、帝国書院の地図ということに決定する。

委員長 続いて算数科を検討する。

事務局 調査研究答申の総合所見は次の通りである。全学年、全単元で「復習」「練習」「たしかめ」によりスパイラル学習ができるようになっており、基礎・基本の学力の確実な定着に結びつく工夫がなされている。また、巻末の「発見！算数島」には算数資料集を掲載し、「わくわく算数ノート」や「分かりやすく説明しよう」により、ノートや発表の素地を学習できるような工夫も見られる。さらに、全学年「学びを生かそう」の掲載により活用力向上、「考えを広げよう、深めよう」の掲載により思考力の向上も期待できる。以上の理由で総合的に判断して、啓林館が最も適していると考え。審議をお願いします。

- 本市は算数に課題がある。指導力の問題もあるが、その要素がどれだけ加味されるかが協議のテーマになる。これまで啓林館を使っていたことが要因になっているのではないかと思いつきながら見させて頂いた。どこの会社も工夫されているが、啓林館が最も基礎・基本を重視している。全体的に易しい。問題例が少なくても、指導者が補充してきちんと指導していけば、うまくいくのではないかという期待もできる。

面積が一番大きな課題であるが、啓林館以外は四角形から入る。啓林館は三角形から入る。ここが唯一違うところ。台形の考え方も他者に比べて少なく出している。基礎はきちんと押さえている。他は4つの例を出し、啓林館は2つ。あとの2つは子供たちに考えさせるということ。きちんと指導すればできるという要素が残っているのが啓林館。結論は、選定委員会が選出したように啓林館がふさわしい。

学図は中学校とのつながりがきちんとできている。教出は、問題数が非常に多い。実は、これは魅力的である。しかし、庄原市の実態に合うかというところを少し懸念する。

- 似たような意見になるが、「基礎・基本」定着状況調査の結果から、図形の他に比例・反比例に課題があったので、そのあたりを見てみた。啓林館は丁寧に比例・反比例を指導している。図形の方は、教出は基本的なことは指導しながら、応用・活用・発展などの活用力へ力を伸ばす感じになっている。いわゆるB問題につながるような問題を出している。どちらを選ぶかということ。基本重視か、もっとしっかり発展させていくか。今まで使っていた教科書で力が伸びなかったのはこの辺が要因かとも思う。ある人から教科書を丸暗記するくらい覚える。基礎・基本をしっかりしておけば力が付くと聞いたことがある。そこで、もう一度、基礎・基本をおさえていく。出来る子は発展をやっていくというところではないか。魅力があるのは、教出であったが、本市の課題から考えると啓林館を選びたい。
- 基礎・基本をやりっぱなしではなく、もう一段階あげてもいいという思いもあるが、実状が伴っていないので、基礎・基本を徹底させないといけないのではないか。教師の工夫が出来る余地があることに期待し、研修で授業力を付けていかないといけない。

委員長 基礎・基本の徹底という方向でよいか。他に意見はないか。

- どこかの会社で、子供たちがつまずきはじめる単元で、分かりやすいめあてを示していたところがあった。それと都市部はほぼ教出。これは何か理由があるのだろうか。庄原市の実態とはまた違っている。ついていけない子供たちはなかなか授業を聞くことができない。啓林館は、分かりやすく示していた。
- 子供がつまずくところは、図形、分数、割合などである。
- 何を学ぶのか提示してあるのはよい。
- 啓林館はとっつきやすい。
- 教出レベルまで求めるか。
- そのレベルは本市の実態に合うのかどうか。

- いろいろな問題があった方がよいのではないか。授業の中で、教科書に載せてある問題をとばしていくことは可能であるが、教科書にない問題を盛り込むのは相当力のある教員となる。したがって、教出を選定しておく方が、子供にとっていろいろな問題ができるのでいいのではないか。
- 最初から問題を多く示してあれば、問題全てをやらなくてはいという思いになるのではないか。
- 教出は、レベルに合わせていくやり方ができる。最初からたくさんの問題を与えて子供に選択させていくということもできる。基礎からやるのとどちらがよいかということ。
- 模試を受ける時、学校ではやったことがないという問題に取り組まなくてはならないこともある。さまざまな問題に当たっていた方が伸びる子は伸びるのではないか。
- その点は、指導者が提示していかないといけないこと。
- 学力に合わせてやって頂いているとは思いますが、伸びる予定の子も伸びない。だから塾に行く子もいる。レベルアップして、そこについていけるように指導することも考えていく。今まで啓林館でだめだったのであれば、教科書会社を替えていくことを考えてもよいのではないか。
- 若い指導者にとっては、教科書に無い問題をもってくるというのは難しいのではないか。さまざまな問題をあらかじめ示してある方がよい。
- 算数・理科はさまざまな問題に当たった方がよい。
- 啓林館は子どもたちが考えていく余地がある。
- 問題パターンにはたくさん当たらせての方がよい。小学校は伸びていく時期である。
- ドリルなどを活用して補的にさせていく方法もある。現状とのギャップがあるという点だけである。
- 教科書に載っている問題は全て教えないといけないのか。
- 学習指導要領に基づいて教科書は作られている。指導すべき内容は原則として教科書に載っているものである。
- 家庭学習で取り組むことはできないのか。
- 教える内容は学校ですること。家庭学習では、学校で指導していない内容をなかなか求められない。
- 啓林館は、本市では何年目になるのか。少なくとも8年は使っていると思うが。
- これまでに、この啓林館を使った研究も進んでいる。成果が見られつつある。
- いろいろな意見があるが、選定委員会でいろいろと考えて出された基礎を大事にするという意見を大切にするとともに、各種テスト等の結果から算数・理科に力を入れる必要があることも考慮しなければならない。また、これまでの指導により、幾分か中学校の数学も改善されてきている。そこに期待し、基礎・基本を大事にしている、啓林館の方がいいのではないか。

委員長 算数は啓林館でよいか。

- 全員 よい。
- 委員長 では、理科を検討する。
- 事務局 調査研究答申の総合所見は次の通りである。こちらの方は2社。
学校図書の教科用図書は、実験・観察のページの左右にスペースを設けて、予想、実験、結果、考察等の実施を確認できるようにしたり、科学的な言葉や危険防止について説明したりしている。図や写真が大きく、発色も自然に近い。また、巻末の「考えよう調べよう」で観察や実験の方法、実験用具の使い方等をまとめて解説している。
啓林館の教科用図書は、実験から考察までが1ページ又は見開き2ページになるように表記してあり、その流れや内容をつかみ易い。また、条件制御が必要な実験では、同じ条件と変える条件が明示されている。「理科につながる算数のまど」（全学年）では、算数科の学習内容を活用出来るよう工夫している。さらに、「地域資料集」（5・6年）で身近な自然と学習内容との関連を図り、その中に庄原市の地層やクジラの化石等も紹介されている。
以上の理由で、総合的に判断して、学校図書または啓林館の教科用図書が最も適しているということである。審議をお願いする。
- 委員長 意見をお願いする。
- 学図は写真がきれいだという印象。発展を大事にしている。巻末の「考えよう」「調べよう」は発展させていこうという姿勢がみられる。啓林館の方は、学習の流れが丁寧で、まとめもしっかりよくできている。特色として、別冊がついている。野外の観察など、参考にしながら指導していくのによい。
- 理科の内容はどの教科書もほとんど同様。物理、化学、生物、地学の観点から見て、いくつか特徴的なことを述べる。東書は5年生、赤ちゃんの実物の大きさに対してきちんと工夫をされた図、大日本は4年生に星座の工夫があった。ビニールシートがあり、そのビニールを空に合わせると星座が分かる。学図は全学年とも展開の仕方が工夫されている。「考えよう」「調べよう」が特徴的。教出は、学習の進め方とまとめ方があった。この1社だけである。4年生の表紙となっているのは帝釈峡雄橋である。6年生は、地震とか火山の災害に特化してよくまとめている。特集がある。啓林館は資料が大変豊富。生物はいろんな題材を使っている。啓林館はとりわけ物理、化学が工夫してある。振り子の提示は細かい設定がある。化学では、BTB液のことにふれている。地域資料、クジラのこと啓林館で扱っている。さまざまなことを考えた結果、啓林館がよい。振り返りシートもある。生き物との共存もテーマにしている。
- 委員長 その他、意見はあるか。
- 教出の表紙、ぜひ雄橋を見てほしい。わざわざ取り上げている。内容についてみると、学習のまとめがあったのはこの1社のみ。
- 3年生が初めての理科。理科嫌いにさせないため、分かりやすい、やってみようという気持ちを奮い立たせるようにまとめているのは、啓林館。庄原市の地層やク

ジラ化石等も取り上げてあるのは、魅力的である。

委員長

では、啓林館でよいか。

全員

よい。

委員長

理科は教科書、啓林館で決めたい。

続いて、生活科の検討をする。

事務局

調査研究答申の総合所見は次の通りである。学習内容について段階的に構成されており、興味・関心を高めながら身近な人々・社会・自然と関わる活動を通して自らのことや生活について考え、生活する上で必要な習慣や技能を身に付けることのできる構成となっている。また、外での活動に役立つ「たんけんブック」も充実している。以上の理由で、総合的に判断して、啓林館が最も適しているということである。審議をお願いする。

委員長

意見を願います。

○

資料にあった「たんけんブック」とは小さい「冊子」がついているのか。野外に持って歩けるような。

事務局

そうである。

○

生活科は気付くということに係り、自然や生活のことを扱っているが、自然の題材を一番多く取り上げているのが、啓林館で、23種類。東書、大日本、学図、教出は7種類。光村が5、日文が9である。啓林館は、別冊もある。大日本は評価カードがある。学図は災害避難場所が取り上げてある。教出は伝え合うというところで、家族のことを取り上げている。心動かされる内容である。光村は、母親を取り上げている。啓林館はない。啓林館は自然のことについてが、評価できる。日文はお茶とか点字を取り上げている。教出の家族というテーマは考えさせられ工夫した内容がある。

○

それぞれ工夫があり、ほとんど差はない。選定委員会の選定理由も踏まえ、理科で啓林館を選んだのであれば、生活科でも啓林館の方がよい。この場合はつながりを考えてもいいのではないか。

○

啓林館を使った場合、是非、学校では、家族をテーマにした投げ入れ教材を工夫し、取り上げてほしい。

委員長

他に意見はないか。

では、それぞれ特徴的なことはあるが、生活科の教科書は啓林館でよいか。

全員

よい。

委員長

では、続いて音楽科を検討する。

事務局

調査研究答申の音楽の総合所見をご覧いただきたい。2社を比較してある。学習の流れが一目でわかる目次は、1年間の学習の見通しをもつことができる。また巻末に「ふり返りのページ」として学習内容をまとめて記載することで、復習や予習に利用することができる。リコーダーの入門期の学習において、イラストを効果的に使い、運指がスムーズにできるよう工夫されている。音楽づくりの活動を重視し

た構成で主体的に音楽づくりが行える内容になっている。鑑賞の学習において、旋律の上がり下がりを示す色線を6年生まで示してあり、主な旋律をつかみやすくなっている。以上の理由で、教育芸術社が適しているということである。ご審議をお願いする。

- 委員長 意見をお願いします。
- 色分けで色弱の子供によくないという意見があったが、確認をしていただきたい。
- 事務局 分かりやすい反面、障害のある子供によくないということであった。
- もう1社は、色がシンプルである。
- どのくらいの視覚障害の子供がおられるのか。
- 事務局 ごくわずかである。
- 事務局 分かりやすい工夫として色分けを取り入れているということである。
- 学習の進め方や歌唱・器楽指導、鑑賞教材など、それぞれ特色が出ていて良さもある。日本の文化・音楽の表現は教出が優れている。教芸の方は裏表紙に少し載せている。教出は随所に日本の文化・伝統の音楽が出ている。また、全ての学年において、これまで説明のなかった国歌の意味や美しい写真なども載せている。さざれ石もある。さらに、多様な表現の工夫がある。教出は「音楽ランド」でたくさんの曲数を揃えている。教育芸術も「みんなで楽しく」があるが、数が少ない。2年生でいうと、教出は11、教育芸術は5、4年生では教出は14、教育芸術は7。5年生は13と9。6年は15と9。全て教出が上回っている。教出は、多様な音楽活動について「こころ」というテーマで統一している。それから、和の音楽についても、鑑賞と歌唱も多く取り上げている。
- 確かにそうである。
- 同じ教材を比較すると、「ゆかいに歩けば」では、教出は具体的な歌い方を提示している。リコーダーの吹き方もさまざまに表現し、少しでも取り付きやすいようにしてある。使う楽器の例も選定資料にもあるように多く示している。一方、定番の取り扱いたい曲「ビリーブ」「旅立ちの日に」は教芸にしかない。しかし、卒業式に歌うのであれば他からも取り入れられるし、全校音楽でも歌える歌であり、取り入れる工夫はできる。教出は、辻井伸行さんも取り上げ、努力する姿やピアノ演奏の素晴らしさにもふれることができる。以上のような点から、教出がよい。
- 教芸は、「リズムをこうしましょう」「体を動かしましょう」など、歌うのにこれをしていかなければいけないと次々と押し付けられて、指導する方としては、付けていかなければならない力かもしれないが、窮屈で面白味がない感じがする。教出は、写真もきれいで、日本の文化、自然、世界の音楽の様子や音楽家の言葉など紹介している。いろいろな歌を指導する中で、先ほどの力をつけていくような、音楽を楽しみながら勉強していく教科書になっている。
- 国歌「君が代」など歌詞の解説がきちんとしてあるというのはよい。工夫がされている。写真があるのもよい。
- 「ビリーブ」「旅立ちの日に」などは、学校での扱いも変わってきているのではな

いか。最近の流れでは、いろいろな曲に対応してきている。

- 教出は、全校合唱に対応できるよう、第1学年から共通の題材を扱っている。様々な規模の学校に合わせて扱うことができ、多様な音楽活動もできるため、本市の活用に効果的である。

委員長 それでは、選定委員会とは異なるが、教育出版でよいか。

全員 よい。

委員長 では、教育出版を音楽の教科書として選びたい。

続いて、図画工作科について検討する。

事務局 調査研究答申の総合所見であるが、掲載されている参考作品の完成度が高く、掲載数が豊富であることは、さまざまな背景を持つ児童の個性を生かすことにつながると考える。また、学習の振り返りが単元毎に示してあり、その振り返りの内容は、自分や友達の肯定的な評価を促す工夫がしてあるので、児童は図画工作科の授業を大切にするとともに、児童に友達を思いやる心が育つと考える。という理由で、開隆堂が最も適しているということである。審議をお願いする。

委員長 意見ををお願いする。

- 印象を述べたい。開隆堂は、見たときに驚くほどいろんなものがある。主体的に作るということから自由に発想していいということかなと感じた。模範的なものを提示してあるというより、抽象的、主体的、自由に作品を作るという観点で提示してあるという印象を受けた。日文は、子供たちの創作意欲を沸かすように落ち着いた雰囲気、観点も示してあり、参考になる教科書だという印象を受けた。選定委員長から説明を受けた時に、「作品の完成度が高く」とあり、自分の考えと違い困惑した。

- 2社を比較する。開隆堂は、「3つの育てたい力」が提示してあり、日文は「5つの活動」というところで、造形遊び・絵に表す・立体に表す・工作に表す・鑑賞という視点でまとめているところが違っている。表紙の説明があるのが、日文である。

開隆堂は、自由に思うことが芸術、図工であるというところまで展開している。日文は子供が作品を作っている様子があるなど、イメージがわかりやすくしている。手立てなども示してあるため取り組みやすい。振り返りはどちらもある。

開隆堂は、作品が抽象的で高度なのかもしれない。また、色がグロテスクという表現が適切かどうか分からないが、作ってみようという意欲を削いでしまうところがある。日文は作ってみよう描いてみようと思わせる作品があって、色が鮮やかである。また、開隆堂はお話の絵がない。鑑賞について、開隆堂はカードを使って言葉の広がりがある。日文もカードを工夫してストーリーを考える、芸術性を養うという仕組みがある。以上、検討した結果、日文の方がよい。

- ワクワク感は大切である。生活に密着していることも必要である。

- 子供の様子があり、創作意欲が湧くのは、日文。分かりやすい。

- 日文は、道具の使い方も分かりやすくきちんと示している。

- 開隆堂は人の作品を見ていこうと示している。

- 作者が巻頭ページに示されているのは開隆堂。
- 日文には、教科書の物語などの絵があり、読書活動へもつながっていく。
- 委員長 教科書を比べて見られていくらか気付かれたこと、意見があるか。
- 選定委員会の意見に示してある「完成度が高い」ということがよく分からない。
- 今までとは変化させるという思いがあったのか。開隆堂は新しい感じはする。
- でも、開隆堂は、落ち着いて見ることができない。
- 委員長 いろいろと意見が出たが、子供の創作意欲が湧きやすく、落ち着いた色彩の作品の紹介も多くある日文でよいか。
- 全員 よい。
- 委員長 続いて家庭科を検討する。
- 事務局 調査研究答申の総合所見は次の通りである。教科の特性上、実習が多いことから、実物大の写真が多く、まねることで学習ができるようになっているので分かりやすい。特に、左利きの児童には、包丁の持ち方や裁縫の仕方などが視覚的支援となっており、指導しやすい。また、教科書に書き込めるところが多くある。以上の理由等で、総合的に判断して、東書を選定する。審議をお願いする。
- 委員長 いかがか。
- 東書と開隆堂であるが、全体のページ数は東書は128ページ、開隆堂は113ページ。東書は分かりやすく丁寧で詳しい。開隆堂は「縫い方」の所は詳しくて分かりやすい。「ゆでる」という系統をみたところでは、東書は定番のほうれん草、いも、卵。開隆堂は新しいブロッコリー、キャベツが出ていた。自由研究があったのは東書。写真の使い方がいいのは開隆堂だが、資料が少ない。東書は日本伝統をくくって説明がしてある。器具などの使い方がまとめてあるのは東書。ハサミ、ミシン、マークなど、丁寧に書いてある。実習に関する写真が多いのは、開隆堂。グリーンカーテンなども示している。学習のテキストを使って自らできる、プロのことにもふれている、左利きへ配慮、選定委員長の説明にもあったが、これらについては、東書。分かりやすい、自由研究もある、使い方もまとめてあるという点を考えれば、東書の方がよいのではないか。
- 委員長 他にご意見はないか。
- こちらの方がこのポイントで是非というところは見つからなかった。
- 今、説明をされたこともそうだし、選定委員会の総合所見にも納得ができる。
- 委員長 では、東京書籍でよいか。
- 全員 よい。
- 委員長 それでは、家庭科は東京書籍に決めたい。
- 委員長 続いて保健の検討をする。
- 事務局 それでは、調査研究答申の総合所見をご覧いただきたい。特徴的な内容として、食育では地産地消として郷土料理、東日本大震災、新体力テストが取り上げられ、トップアスリートからのメッセージの記述などがあげられ、充実している。著者は中四国の地域出身者も多く、地域性も感じられる。さらに、体育の副読本「わたし

たちのたいいく」と同じ会社であり、関連が図ることができる。以上の理由で、総合的に判断して文教社を選定する。写真、イラストが充実している学研を第二候補に選定する。ということである。審議をお願いする。

委員長

意見ををお願いします。

○

わたしは、第二候補に挙がっている学研がよい。理由をいくつか述べる。単元構成が分かりやすい。写真・絵の効果、配列、丁寧な説明、書く活動もある。保健内容はもちろんのこと、インターネットに関する記述もある。今日的課題である。スクールカウンセラーのコメントも載っている。「もっと知りたい、調べたい」と児童の立場に立った表現で発展学習につなげている。「新しい命」が丁寧に載せられている。スクールカウンセラーのところは具体的な内容が載せてあり、インターネット等、今日的な犯罪についても触れている。

委員長

他の意見はないか。

○

インターネットについては、どのように取り扱っているのか。

○

インターネットの使い方は、犯罪被害の防止というところで扱っている。

○

そのような観点から保健で扱われるようになるのか。

○

「犯罪から身を守る」というところ。インターネットについては、インターネットの使い方というよりは、犯罪の防止というところ。

○

ひどい犯罪に巻き込まれないように学習する、啓発する、ということか。

○

そうである。

○

「犯罪から身を守るために、インターネットを正しく使おう」というところに整理してある。

○

文教社では、へその緒というのを取り上げていた。

○

学研は、学習内容について、体のこと、健康のこと、犯罪からということ網羅している。また、「育ちゆく体とわたし」の単元では、「新しい命」について発展学習として取り上げ、丁寧にまとめている。

○

選定委員会は、文教社を選定しているので、文教社との違いを見るのはどうか。

○

東日本大震災について挙げているのは、文教社。

○

自然災害についてのことか。自然災害は、学研も光文も大日本も扱っている。

○

スクールカウンセラーの思春期の話は、大日本と学研が扱っているが、学研の方が具体的な内容である。

○

文教社は副読本と同じ会社ということがあったが、同じ会社でどのような関連があるということまでは選定委員会から話がなかった。

○

文教社では、地産地消はどのように挙げてあるのか。

○

郷土料理が使われていることなどか。

事務局

3・4年で扱っており、コーナーを設けている。

○

各社のスクールカウンセラーの扱いはどうか。

○

思春期のところは、5・6年生では重要である。学研は分かりやすい。

委員長

意見はあるか。

- 思春期の悩み等、分かりやすく書いてあるのは、学研である。
- 学研は、分かりやすいという印象を受けている。また、「もっと知りたい、調べたい」と児童の立場に立った表現による表題で、意欲喚起につなげている。
- 学研は、選定委員会でも第二候補として挙げられているのでよいのではないか。
- 文教社は、選定理由として挙げられている副読本との関連性が明確ではない。
委員長 では、学研でよいか。
全員 よい。
委員長 それでは、保健の教科書は、学研ということに決めたい。
- 委員長 以上、検討したとおり、議案第 49 号「平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採
択について」採決を行います。賛成の委員は、挙手をお願いします。
全員 (挙手)
- 委員長 全員賛成ですので、議案第 49 号「平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択に
ついて」は、採択されました。